主婦の目・主夫の目
＜簡易包装（無包装化）の普及促進を図る＞

メンバー：上田禎彦、三須友則、河田陽子、児玉美保子

１．活動テーマの選定

私たちが日常購入している商品は包装されて販売されており、商品の使用後は「ごみ」となって廃棄されている。焼却ごみ１／３削減を実現するには商品の包装の簡易化（究極は無包装化）により、ごみの発生を削減することが一番良い方策であると考えた。

事実、一部の量販店の特売では生鮮食品を無包装で販売している。また、ホームセンター等ではピアノや大型家具が無包装で購入者宅に配達されている事例もある。

そこで、私たちは日常購入する商品の簡易包装化（究極は無包装）の普及促進を図ることを活動テーマに選定した。

２．活　動

私たちは主婦（２名）と主夫（２名）に分かれ次のように活動することにした。

活動１　主婦は千葉市内８店舗のスーパーを回り、生鮮食品がどのように売られているかを見て、感想・疑問をまとめ、簡易包装化の普及促進について検討する。

活動２　主夫は大型薄型テレビの包装の実態を量販店長の協力により実施し、さらに家庭電気製品メーカーへ３Ｒと簡易包装化に関するアンケート調査を行いメーカーの対応を観て、簡易包装化の可能性を検討する。

３．活動の実践

活動１：スーパー探検！！　主婦の眼

１）千葉市内８店舗のスーパーを回り、生鮮食品がどのように売られているかを観て、感想・疑問をまとめた。

（１）野菜売り場にて

①大根、キャベツなどの大型野菜は山積み、バラ売りが多かった。レタスは、売り出日にバラ売りが多い。

②野菜全てをバラ売りにできないでしょうか

野菜売り場の一風景

（２）果物売り場にて

①レモン１個がラップに包まれて売られているのを見て“なぜ”と思いました。

②桃は、箱から取り出して買う店、パック詰めの店、様々でしたが、「桃に触れないで」と消費者のマナー向上を訴える立札も見られました。

果物売り場の一風景

（３）魚売り場にて

①旬の魚はバラ売りされていました。すばらしい！　通年で採用してほしい。
②少量パックを用意するより、バラ売り希望。
③刺身はパック売りだけでした。

魚売り場の一風景

（４）肉売り場にて

①対面販売しているお店もありましたが、多くの店舗ではパック売りでした。
②ごみを減らすのには量り売りが良いと思うけど、人件費がかかってしまうようです。

肉売り場の一風景

（５）店長との面談による店側の考え方

◆果物　→　無包装できるものはそのまま置いているが、桃などは無理があるのでパックする。
◆野菜　→　機械でパックしたほうが人件費がかからないので、パック詰めにしている
◆肉類　→　パック詰めにしたほうが人件費がかからない
◆魚　　→　旬のものはお客様にビニール袋に入れてもらっているが、パック詰めにしたほうが清潔性が保たれる

２）まとめ

今回の探検では疑問点がたくさん浮かびました。
①店舗側の販売方法はさることながら、私たち消費者も野菜や果物などの商品を乱暴に扱って傷つけることのないようにするなど反省点がありそうです。
②欲しいものを欲しい分だけ購入する「商店街小売」の見直しも必要ではないでしょうか。

活動２：主夫の眼　大型家庭電気製品の無包装化の可能性調査

１）大型薄型テレビの包装実態調査

販売量の多い大型家庭電器製品等一層の簡易包装化、無包装化の可能性を探るため、千葉市内量販店の協力を得て大型薄型テレビの包装（梱包）の実態調査を実施した。その結果から、次のことが明らかになった。

表－１　大型薄型テレビの容器包装調査結果

商　品		大型薄型テレビ				
サイズ（インチ）		42	32	37	42	32
メーカー名		シャープ	シャープ	東芝	パナソニック	パナソニック
形式名		LC-42ES50	LC-32DE5-B	37CV500	TH-P42X1	TH-L32X1-K
梱包外形寸法	奥行き	85.5cm	96cm	116cm	126cm	100cm
	幅	28cm	22cm	29cm	26.5cm	33.5cm
	高さ	63cm	62.5cm	77cm	78cm	70cm
重量内訳	外箱	1.7	2	2.3	4.4	2.85
	緩衝段ﾎﾞｰﾙ	-	0.3	1.1	-	-
	発泡ｽﾁﾛｰﾙ	0.4	0.3	0.3	0.6	0.4
	ビニール袋	0.1	0	0.3	-	0.1
	その他	-	-	0.2(プラ取手)	-	0.1(プラ留具)
包装材の総重量		5.0kg	2.6kg	3.5kg	4.2kg	2.2kg
製品の保護に使用されているダンボール以外の包装材料		発泡ｽﾁﾛｰﾙ×6	発泡ｽﾁﾛｰﾙ×6(リサイクル材)	発泡ｽﾁﾛｰﾙ×6	-	発泡ｽﾁﾛｰﾙ×5
		梱包ｼｰﾄ(袋状)	梱包ｼｰﾄ(袋状)	-	梱包ｼｰﾄ×4	-
		-	ﾋﾞﾆｰﾙ袋(小)×２	-	袋(大)×1	袋(大)×1
		取扱説明書	取扱説明書	－	－	－

①１台の大型薄型テレビ（画面サイズ 32 型～42 型）の包装材は段ボール箱・発泡スチロール枠・ポリ袋などで、総重量は 2.2～2.85kg（32 型）、4.2～5.0kg（42 型）で、製品重量の５～６％を占めていることがわかった。

②また、メーカーによって包装の重量に違いがあることもわかった。

③本調査から大型家庭電気製品の簡易包装化（無包装化）を図れば、ごみの減量に役立つと確信した。

２）家電メーカーに対するアンケート調査

私たちは家庭電気製品メーカー10 社に対して、一層の簡易包装化や無包装化に対する考え方、取り組みの有無、今後の可能性についてアンケート調査を行った。

①アンケート調査票の発送は 9 月、回収は 10 月末で実施した。

②アンケート調査票送付メーカーは重電総合メーカー3 社、家庭用電気製品総合メーカー４社、音響機器メーカー3 社の 10 社とした。異なる事業形態のメーカーを選定したのは事業形態により３Ｒおよび包装の簡易化に対する方向性の対比をみるためである。

３）アンケート調査票送付メーカーと回収結果

①調査に対しては３社から回答をいただくことができた。そのうち１社は事業撤退をしたため調査票を提出できないとのことで、２社から調査票を提出していただいた。

表―２　アンケート送付メーカー及び回答の有無

業　態	送付メーカー名	回答の有無
重電総合メーカー	株式会社東芝	回答無
	三菱電機株式会社	回答有
	株式会社日立製作所	回答有
家電総合メーカー	パナソニック株式会社	回答無
	三洋電機株式会社	回答無
	株式会社富士通ゼネラル	回答無
	シャープ株式会社	回答無
音響機器メーカー	ソニー株式会社	回答無
	パイオニア株式会社	回答有(製造中止)
	日本ビクター株式会社	回答無

②調査票を提出していただいた２社は重電総合メーカーであり、当初目論んでいた事業形態の違いによる対比をすることはできなかった。

③２社のうち、１社は設問に対して簡潔に回答したのに対し、もう１社は自社の立場や状況を補足で説明するなど、従来では考えられないくらい真摯な回答が得られ、有意義なアンケート調査ができた。

４）家電メーカーに対するアンケート調査のまとめ

回答のあった２社からの回答を簡易包装の観点から集約すると次の通りである。

①大型家庭電気製品に限らず、メーカーは製品の**包装**を製品の損傷防止、保管、流通のため欠かせない要素としている。

②メーカーは３Ｒについての趣旨を理解し、積極的に対応している。

③簡易包装化（省資源化）はコスト削減にもつながるので、製品に悪影響を及ぼさない範囲で積極的に推進している。

④しかし、無包装化は現在の製品流通の実態からできない状況である。

５）家電メーカーに対するアンケートの主な設問と回答内容

（１）３Ｒ推進に関するアンケート

①３Ｒ推進に向けた取り組みについて

イ　両社とも、環境問題についてはＣＳＲ（Corporate Social Responsibility ＝企業の社会的責任)）に基づいて行動している。

ロ　３Ｒで優先している事項は両社ともリデュース（削減）としている。それに加えてリユース（再使用)、リサイクル（資源化）にも力を注いでいる。

ハ　自社の３Ｒ実施状況については両社とも評価している。

ニ　３Ｒに取り組んでいる理由は両社とも、法律で義務付けられているため、コストが削減できるため、また企業理念に沿って行動しているとのことであった。

②家電リサイクル法及び容器包装リサイクル法に対する取り組み、評価について

イ　家電リサイクル法及び容器包装リサイクル法は廃棄物の発生抑制に寄与しているとの認識であった。

ロ リサイクル費用の徴収方法については、1 社は現行方式（家電は廃棄者が負担、容器包装リサイクル法は包装を実施した事業者が負担）が妥当としたが、もう 1 社は家電方式の方がよいと意見が分かれた。

③消費者から、購入製品の包装の処理を要請された場合の対応について

そのような要請はない、との回答であった

表－３（１）　３Ｒ推進に関するアンケート回答一覧

	Ａ社の回答	Ｂ社の回答
質問１－１　「３Ｒ」の３つのうち、貴社が最優先しているのはどの項目ですか		
	①リデュース（削減）	①リデュース（削減）
質問１－２　貴社が質問１－１で最優先項目として挙げた理由を記入してください		
	循環型社会形成推進基本法の基本原則としての最優先順位に基づき、リデュースを最優先としていますが、リユース、リサイクルについても可能な取り組みを進めています。	３Ｒとも力を入れておりますが、リデュースに関しては、弊社の「環境ビジョン 2021」において「資源投入量を 2021 年までに 2000 年比 30%削減」を掲げ、製品群を選択し具体的に削減を図っているため、最優先と位置付けました。しかしそれだけではなく、包装材のリユース、家電製品における混合粉砕プラスチックのリサイクル技術開発と事業化、家電製品への自己循環など、３Ｒ全般に注力しております。
質問２　貴社が３Ｒに取り組む理由は何ですか		
	①コスト削減になるから ②資源の節約になるから ⑥法律で義務付けられているから ⑦その他（循環型社会の構築に有効であり、環境対応の一環として企業の社会的責任の一つと考えているため）	①コスト削減になるから ②資源の節約になるから ③環境によいから ④企業イメージの向上になるから ⑥法律で義務付けられているから ⑦その他（３Ｒ推進は企業責任と考えています）
質問３　貴社の３Ｒの推進に向けた取り組みを貴社自身がどのように評価していますか		
	①十分責任を果たしていると思う	①十分責任を果たしていると思う
質問４　家電リサイクル法および容器包装リサイクル法は廃棄物の発生抑制に寄与していると思いますか		
	①寄与していると思う	①寄与していると思う
質問５　リサイクル料金の徴収方法について		
	法律で規定された現在の徴収方法を尊重しています。	①廃棄時に消費者が（廃棄者）が支払うほうがよいと思う。
質問６　容器包装リサイクル法に基づくリサイクル費用の負担について貴社はどのようにお考えですか		
	容器包装リサイクル法に規定された事業者の義務として、当社は、市町村が分別収集した容器包装廃棄物を指定法人に委託して再商品化しています。再商品化の委託料金につきましては、指定法人における収支管理のもとで毎年調整されており、適切に設定あれているものと認識しています。	①リサイクル費用の負担は厳しい
質問７　容器包装リサイクル法では、「家庭用電気製品の包装」は原則として購入者が家庭ごみとして自治体のルールに従って処理することになっていますが、貴社では、貴社製品の購入者から、家庭用電気製品の包装を処理するよう要請されたことがありますか		
	②ない	②ない
質問８　質問７で「ある」を選んだ方にお尋ねします。その際、貴社はどのように対応しましたか		
	－	－

（２）簡易包装化（省資源化）に関するアンケート

①家庭用電気製品の簡易包装化について

家庭用電気製品の簡易包装化への取り組みについて、１社は既に実施していると答えたのに対して、もう１社は国内生産の一部の製品に限定して実施しており、また、過去に簡易包装化を実施した製品の中にも現在は簡易包装化を止めた製品もあるとの回答であった。

②簡易包装化（省資源化）を実施する要因について

両社とも「環境によい」「資源の節約になる」「コスト削減になる」であった。

③自社製品の包装についての評価について

両社とも「評価している」との回答であった。

④大型家庭電気製品の無包装化への取り組みについて

「現状では無包装化はできない」との回答であった。

⑤無包装化できない理由について

「製品の保護、保管、管理、輸送のため必要」との答えであり、１社が「消費者トラブルの増加が予想される」との回答であった。

表－３（２）　簡易包装化（省資源化）に関するアンケート回答一覧

	Ａ社の回答	Ｂ社の回答
質問１　貴社は家庭用電気製品の簡易包装化（省資源化）を検討していますか		
	簡易包装化は国内生産の一部の製品に限定して実施しているほかは検討していません。また、過去に簡易包装化した製品において、現在は簡易包装化を取り止めた製品もあります。一般的な包装としての省資源化は、全製品で実施しています。	①すでに実施している
質問２　貴社が質問１で「①すでに実施している」、「②検討中である」、「検討する計画である」を選んだ方にお尋ねします		
	②資源の節約になるから ④コスト削減になるから ⑥その他（循環型社会の構築に向けた活動として考えているため。（ただし、簡易包装化は国内生産の一部の製品に限定して実施しているほかは、検討していません））	①環境によいから ②資源の節約になるから ③企業イメージの向上になるから ④コスト削減になるから
質問３　質問１で「④検討していない」を選んだ方にお尋ねします。貴社が家庭用電気製品の簡易包装化（省資源化）を検討しない理由は何ですか		
	③その他 （包装仕様を限定している理由：製品輸送時の製品損傷を最小限にするため、輸送条件（国内輸送、輸出入に伴う輸送）、製品・据付時の取り扱い実態等を踏まえ、資源の節約、コストの最小化を図りながら最適な包装設計をしています）	－
質問４　貴社は現在の自社製品の包装についてどのように評価していますか		
	①適正な包装であると思う	①適正な包装であると思う
質問５　貴社は大型家庭電気製品（大型の冷蔵庫、薄型テレビ、洗濯機等購入者が持ち帰り困難な大きさのもの）の無包装化についてどのように考えていますか		
	①無包装化はできない	②検討しているが現在の情勢では無包装化はできない

質問６　質問５で「①無包装化はできない」、「②検討しているが現在の情勢では無包装化はできない」を選んだ方にお尋ねします。無包装化が困難なのはどのような理由からですか		
	①製品の保護のために必要だから ②製品の輸送のために必要だから ③製品の保管に必要だから ④製品の管理のために必要だから ⑥その他（仕損費（損傷による返送品の処分コスト等）の最小化のため。また、大量輸送を低い環境負荷で効率よく行うために、大型家具やピアノと異なり、適切に設計された包装が必要）	①製品の保護のために必要だから ②製品の輸送のために必要だから ③製品の保管に必要だから

（３）製品の包装についてのアンケート

①製品包装の必要性について

イ　両社とも必要であるとの回答であった。

ロ　その理由は「商品の保護上必要」「消費者に安心して購入してもらうため」であった。

②家庭電気製品の包装設計部門と別組織で簡易包装化及び省資源化を検討する部門の有無について

両社の回答は「有」と「無」にわかれた。

③家庭電気製品の包装に規格や基準の有無について

両社とも有るとの回答であった。

④規格や基準の見直しの有無、その時期について

イ　両社とも規格や基準の見直しは行っているとの回答であった。

ロ　見直しの時期は定期的に行っているのではなく、モデルチェンジ等必要な時に行うとの回答であった。

表－３（３）　製品の包装についてのアンケート回答一覧

	Ａ社の回答	Ｂ社の回答
質問１　家庭用電気製品の包装の必要性についてお尋ねします		
	①必要である	①必要である
質問２　質問１で「①必要である」を選んだ方にお尋ねします。家庭用電気製品の包装が必要な理由は何ですか		
	①製品を物理的に保護するために必要である ③製品を輸送するのに必要である ④製品を保管するのに必要である ⑤消費者に安心して購入してもらうためにも必要である	①製品を物理的に保護するために必要である ②製品の性能を維持するため必要である ⑤消費者に安心して購入してもらうためにも必要である
質問３　質問１で「②必要ない」を選んだ方にお尋ねします。家庭用電気製品の包装が必要でない理由をお書きください		
	－	－
質問４　貴社には家庭用電気製品の包装の設計部門とは別に簡易包装化及び省資源化を検討する部門がありますか		
	②ない	①ある
質問５　貴社は家庭用電気製品の包装についての規格や基準を作成していますか		
	①作成している	①作成している
質問６－１　質問５で「①作成している」と回答した方にお尋ねします。貴社は家庭用電気製品の包装の規格や基準の見直しをしていますか		
	①見直している	①見直している

質問６－２　質問６－１で「①見直している」と回答した方にお尋ねします。包装の規格や基準の見直し時期はどのように設定していますか		
	②製品のモデルチェンジ時期に見直している ⑤その他（改定が必要な事情が生じた都度、改定している）	⑤その他（流通の実態等に対応させた見直しを行っています）
質問７　質問５で「②作成していない」と回答した方にお尋ねします。貴社が家庭用電気製品の包装について、規格や基準を作成していない理由をお書きください		
	―	―

４．活動の成果

私たちは主婦の目・主夫の目で商品の簡易包装化の可能性を探り、そして簡易包装の普及促進について検討してきたが、次のような成果が得られた。

１）スーパー探検！！　主婦の目

①主婦の目線から検討した食料品の無包装化はスーパー等の考え方が変われば、多くの商品でバラ売り（無包装化）の推進が図れることがわかった。

②実際、特売日には野菜・果物・魚・肉等がバラで販売する光景が見られるようになっている。このバラ売りを日常的な販売になるよう私達がお店に働きかけて行く必要がある。
また、購入者側でも良い商品を選ぶのはよいとしても、商品の取り扱いは丁寧にするというマナーの確立が必要である。

２）大型家庭電気製品の簡易包装化の検討！！　主夫の目

①大量生産される大型家庭電気製品の簡易包装化は製品の保護に必要な機能の範囲内で進むが、無包装化は困難であると認識した。

②無包装化するには無包装の製品を損傷なく消費者へ運搬する新たな流通システムを構築する必要があると痛感した。

５．課　題

使い捨て生活から如何にして脱却するかが課題として残った。

私たちの活動からも明らかのように、社会全体が便利で快適な生活を提供してくれた使い捨て社会に浸っているのが現状である。

この便利な生活からの脱却は容易なものではない。これから私達は如何にして使い捨て社会から脱却するのか、心ある市民は個人的には実践しようとしても社会システム化されている壁に阻まれることになるであろう。

やはり、行政（国）がしっかりとした道筋をつけるとともに、行政と市民が協力して社会構造の改革を実施する必要がある。

年齢が６０歳以上の人には少年時代、家にある醤油用のびんを持って醤油を買いに、鍋を持って豆腐を買いに行った思い出があると思われる。

究極は量り売りの復活かもしれない、今の流通システムで対応できるのか、考えると頭の痛くなる問題ばかり浮かんでくる。

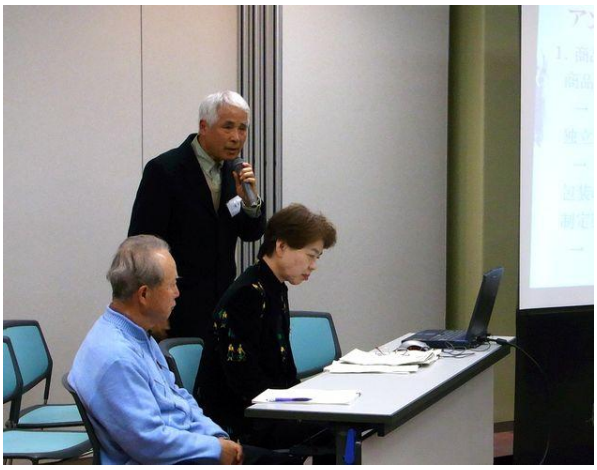
私たちの世代が循環型社会を崩壊したのだから、少なくとも新しい循環型社会への道筋だけでも付ける義務があると思う。また、そうしなくてはならないと考えている。

以上

↑容器包装・リユース食器分科会全体での意見交換↑

↓活動報告会で発表

調査結果を共有↓



↑活動報告会でインタビュー

３Ｒ全国大会ではアンケート調査を実施↑